

意欲が低く、学習が遅れがちになる

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・見通しをもちにくく、課題を理解して取り組むことが難しい。
- ・聴覚よりも視覚優位で、耳で聞いただけでは忘れることが多い。

授業における指導方法の工夫のポイント

- ⑤ 時間の構造化
- ⑥ 焦点化
- ⑧ スモールステップ化
- ⑨ 視覚化
- ⑩ 感覚の活用
- ⑪ 共有化
- ⑫ 学習方法の選択

○ 1人1台端末の効果的な活用



児童が自分の考えを表現して気持ちを伝え合うことができるよう、1人1台端末を活用して考えを共有し、教え合う場を設定する。(共有化)



児童が運動のポイントを視覚的に捉えることができるよう、動画を撮影し、目で見て理解する時間を設ける。(視覚化、感覚の活用)

○ 学びのゴールの自己決定

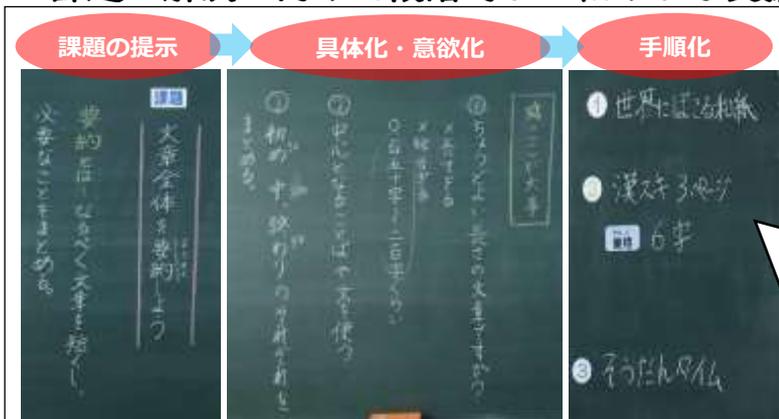


＜掲示物の記載例＞

- ① 問題を解く
- ② 丸付け&答えを写す
- ③ 間違いを分析する
- ④ 間違いを直し直す
- ⑤ 違う問題でも使う

児童が、1単位時間におけるゴールと見通しをもつことができるよう、難易度の異なる活動内容を記載した掲示物等を活用して、ゴールや活動内容を自己決定させる。(学習方法の選択)

○ 課題の解決に向けた段階的かつ細やかな支援



児童が学習課題や活動内容を具体的にイメージしながら本時の見通しをもったり、活動への意欲を高めたりすることができるよう、抽象的な言葉ではなく具体的な言葉を用いて板書したり、情報を精選して伝えたりする。(時間の構造化)

児童の実態に応じた題材を取り上げたり、活動の手順を示したりする。(焦点化、スモールステップ化)

期待される効果

- ・視覚的に捉えたり、見通しをもったりすることで、課題に対して意欲的に取り組むことができる。
- ・考えを表現し、教え合う場や、学びへの自己決定があることで安心して授業に参加することができるとともに、学習への理解も深めることができる。

できないことへの不安が強い

場面・教科

各教科、学校生活全般

困難の背景として考えられること

- ・分からないこと、困っていることを他者に伝えることに不安を感じている。
- ・自分ができないこと、分からないことへの向き合い方や自己理解が難しい。

授業における指導方法 の工夫のポイント

- ④ 学級内の相互理解 ⑤ 時間の構造化 ⑥ 焦点化
⑧ スモールステップ化 ⑨ 視覚化

○ 活動内容と到達点の見通しの明確化

- ・何のためにこの活動を行うのかといった活動内容のねらいを明確にし、どのような手順や段階を経て行うのかといった取組過程や思考過程を図示したり、実演したりしながら提示する。
- ・活動の到達点（内容的、時間的）を具体的に示す。

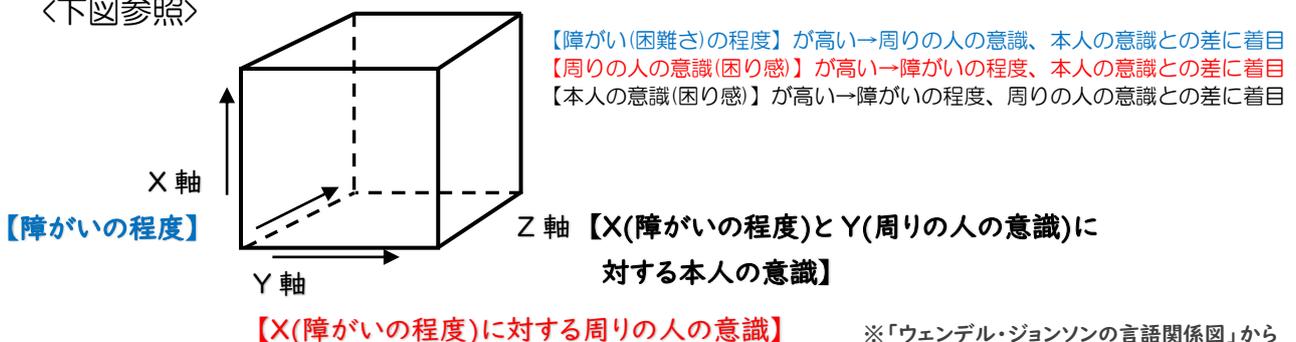
○ 「分からない」「教えてほしい」というヘルプサインを、教師だけでなく他児へ伝えられる関係性づくり、雰囲気づくり

- ・教師が、分からないことや苦手なことを隠せず話題にしたり、子どもたちから教わる、聞くことを行ったりし、意図的にモデルとして示す。
- ・指導や指摘、注意が必要な場合は、伝え方等を工夫しながら最小限とし、同時に「安易に大丈夫と言わず傾聴しながら児童の思いに共感する」「具体的な姿を取り上げ児童の望ましい言動を認める、褒める」等、教師から肯定的な関わりを増やす。

○ 画一的な児童理解とせず、その子の認知傾向や困り感を校内教職員と共に多角的な実態把握を行い、指導に生かす

- ・子どもにとって「問題と捉えられること」は、「障がい（困難さ）の程度」、「周りの人の意識（困り感の有無）」、「本人の意識（困り感の有無）」を合わせて考えることが大切である。

〈下図参照〉



期待される効果

- ・支援者が上記の視点を日常的に意識することで、子ども自身が「自分の言動を受けとめてもらえる」「困った時には伝えられる相手がいる」「自分の力で取り組める」という安心感をもつことができる。

活動の見通しをもつことが難しい

場面・教科

各教科、学校生活全般

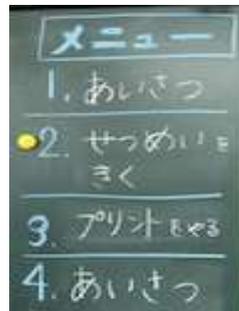
困難の背景として考えられること

- ・指示や説明の理解が聴覚情報だけでは難しい。
- ・活動に見通しをもつことが難しく、不安になり、落ち着かなくなる。

授業における指導方法の工夫のポイント

- ③ ルールの明確化 ⑤ 時間の構造化 ⑨ 視覚化

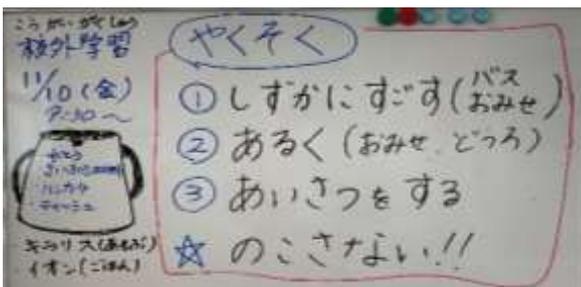
○ 見通しがもてる提示



授業の流れを提示するとともに、今どの場面に取り組んでいるか確認できるように、磁石を置くなど提示方法を工夫（時間の構造化、視覚化）

1日単位だけでなく、1か月単位でも予定が分かるように掲示することにより、先の見通しがもてるよう提示を工夫（視覚化、時間の構造化）

○ 視覚的に分かりやすい提示



質問できる回数を視覚的に提示することにより、落ち着いて授業に参加できるよう提示を工夫（ルールの明確化、視覚化）

校外学習の日時や約束事を明記することにより、見たい時に確認することができ、安心して活動に参加できるよう提示を工夫（ルールの明確化、視覚化）

期待される効果

- ・学級の教室環境や授業の流れについて視覚的に見通しがもてることにより、全ての児童が安心でき、様々な活動に集中して取り組むことができる。

授業中ルールを守ることが難しい

場面・教科

各教科

困難の背景として考えられること

- ・ルールをすぐに忘れてしまう。
- ・見通しがもてないため、落ち着いて授業に取り組めない。

授業における指導方法の工夫のポイント

- ③ ルールの明確化 ⑥ 焦点化 ⑨ 視覚化

○ 始めに必ず本時の学習内容、ルール、ポイントを提示し、みんなで確認

ルール

- ・友達が発表している時は喋らない
- ・すぐ発表できない時はパスをする

学習規律をみんなで確認する工夫
(ルールの明確化)

ポイント

- ・ルールを守って活動する
- ・テーマに合った話をする

授業のねらいを絞り、本時での目標をみんなで確認する工夫(焦点化)

学習内容

- 1 ジャンケンで始めにカードを引く人を決める
- 2 カードを引き、そのテーマの話をする
- 3 順番に全員が発表する
- 4 全員が話し終わったら、隣の人がカードを引く
- 5 時間になったら、新しいカードは引かない

子どもたちがこの時間で何を行うのかが分かる工夫(視覚化)

○ 振り返りをして、ルールを守れたことを賞賛し、みんながルールを守って学習することの良さを確認

○ ルールが守れなかった児童にもできていた部分を認め、次回の課題を明確に伝える

○ 次の時間もみんなでルールを意識することを確認

期待される効果

- ・ルールを意識して活動できない児童はもとより、全ての児童がルールを意識しながら学習に取り組むことができ、学級での学習ルールの定着に役立つ。